

「びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要」投稿の手引き

2021年3月22日 学長裁定

2022年9月14日 一部改定

2023年5月11日 一部改定

1 投稿論文の種類

「びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要」に掲載される論文は、スポーツ学・体育学・大学教育の分野の発展に寄与できる内容のものに限り、以下の種類とする。

(1) 課題研究論文

図書・学術委員会（以下、「委員会」という。）にて決定された課題に沿って、体系的なまとまりを持って書かれている必要があり、内容については委員会にてレビューが行われた後に掲載する。

(2) 原著論文

科学論文としての内容と体裁を整えているもので、新たな科学的知見をもたらすものであることが必要である。掲載については、審査結果に基づいて委員会にて受理される必要がある。

(3) 研究報告

原著論文同様に科学論文としての内容と体裁が求められるもので、掲載については、審査結果に基づいて委員会にて受理される必要がある。

(4) 文献・資料紹介

スポーツ学発展に寄与されると考えられる文献や資料を紹介するもので、委員会にてレビューが行われた後に掲載する。

(5) その他、研究・教育活動等

研究・教育活動に関する情報等を編集し、掲載することができる。

2 投稿論文の作成

以下の本文の書き方、引用文献の書き方などの例は“一般社団法人日本体育学会誌「体育学研究」投稿の手引き（オンライン用）”より引用したものである。

(1) 原稿のフォーマット

- ・ 原稿は、原則としてワードプロセッサで作成するものとし、A4 判縦使い横書き、全角で1ページ 40 字 ×40 行（英文綴りおよび数値は半角）で、上下左右に約3 cm の余白をとり、フォントの大きさは10.5 ポイントとする。図表、動画、写真、その他の資料（付録などを含む）も、A4判縦置き横書きとし、上下左右に約3cmの余白をとり、本投稿の手引き（4）。「図表、動画、写真、その他の資料（付録などを含む）の作成」に従って作成する。本文は現代かなづかいとし、外国語をかな書きする場合は、カタカナで表記する。本文および文献リストには、ページ下部中央に通し番号をつける。また、審査員が要修正事項や照会事項を指摘しやすくし、また著者が修正対応表（回答コメント）で修正・対応箇所を明示するために、本文および文献リストの左側に行番号（ページごとに振り直し）を付加する。
- ・ 投稿論文の上限文字数（スペースを含む）は、本文、文献、注、図表等を含めて全角で20,000字（12.5ページ）とする。ただし、共同執筆の場合は40,000字（25ページ）を上限とする。また、欧文（原則として英語）の場合には委員会が投稿要領を指定する。

(2) 論文作成上の注意

ア 投稿論文表紙

投稿論文の表紙には、論文タイトル、氏名、所属、ランニングタイトルを記載する。また、原則として英文タイトル・氏名、英文による要約（400語以内）、3つ以上5つまでのキーワードをつける。

イ 英文による要約および英文投稿論文

英文による要約および英文投稿論文には、和文のタイトル・氏名・要約をつける。

ウ 論文タイトル

論文タイトルは、和英文ともに研究の内容を的確に表現しうるものとする。副題をつける場合には、コロン（:）で続ける。英文タイトルの最初の単語は、品詞の種類にかかわらず第1文字を大文字とする。その他は、固有名詞など、特に必要な場合以外はすべて小文字とする。

エ 所属機関名

所属機関名は著者、共著者ともに、記載する。その際、省略せずに正式名称を書くこととする。

(ア) 大学の所属が学部の場合は学部名を、大学院の場合は研究科名を明記する。

(イ) 官公庁や民間団体の場合は部課名まで記入する。

オ キーワード

キーワードは、論文の内容や特色を的確に示し、検索に役立ち得るものとする。論文タイトルはそのまま検索の対象になるので、論文タイトルに含まれていないものをキーワードとして記入する。

なお、キーワードは、3つ以上5つまでを、和文と英文の両方で作成する。

カ ランニングタイトル

各ページ上の欄外見出しを指す。題目を短縮するなどして、25字以内で示す。

(3) 本文について

ア 見出し

見出し番号は、見出しの格に応じて、「1」 「1.」 「1. 1」 「1. 1. 1」の順番でつける。

「注」「文献」には番号は不要。

イ 符号

次のような符号を用いることができる。

(ア) ピリオド（.）およびコンマ（,）

(イ) 中黒（・）

相互に密接な関係にあつて、一帯となる文字や語句などを結ぶ際には中黒（・）を用いる。アルファベット文字を用いた用語には、中黒は使えない。

[例] 被験者Y・K→Y.K

(ウ) ハイフン（-）

これは対語・対句の連結、合成語、ページの表記に用い、半角とする。

(エ) ダッシュ（—）

全角1文字分のダッシュ（—）は期間や区間を示すのに用いる。波ダッシュ（～）は原則として用いない。全角2文字分のダッシュ（——）は注釈的な説明をするのに用いる。

(オ) 引用符は、和文の場合には「」を、英文の場合には“”を用いる。

(カ) コロン（:）

副題、説明、引用文などを導く場合に用いる。

(キ) セミコロン（;）

複数の文献が連続する場合に用いる。

(ク) 省略符（…）

引用文の一部あるいは前後を省略する場合は、和文の場合には3点リーダー（…），英文の場合

には下付の3点リーダー（．．．）を用いる。

ウ 数字

(ア) 数を表示する場合は、原則としてアラビア数字を用いる。ただし、Abstractにおいて、文頭に数字が来る場合には、英語表記を用いる。

(イ) 文字や記号の隅につける添え字はその位置に明瞭に表記する。

エ 単位

計量単位は、原則として、国際単位系（SI単位系）とする。

オ 略語

論文中において高い頻度で使用される用語に対して、著者が便宜的に省略した語を用いる場合は、初出時に略さず明記し、（以下「……………」と略す）と添え書きしてから、以後その略語を用いるようにする。

カ 引用

論文中で文献を引用する場合には、基本的な文献を厳選し、正確に引用すること。引用した文献はすべて文献リストに掲載すること。本文中の文献は原則として著者名、発行年、引用ページで示す。ただし、この方式で表記することが著しく困難な場合はこの限りではない。

(ア) 本文中で文献の一部を直接引用するときは、引用した語句または文章を、和文の場合には「」，英文の場合には“ ”でくくる。

[例]

㊦ 「体育科教育学の開拓者」（高橋，2009，p. 171）と称される…。

㊧ “Women and Athletics”（Miller，2004，p. 150）と表記し…。

(イ) 著者が2名の場合、和文の場合には中黒（・），英文の場合には“and”を用いてつなぐ。

ただし、著者が3名以上の場合、筆頭著者の姓の後に、和文の場合には「ほか」，英文の場合には“et al.”を用いる。

[例]

㊨ 「……………」（阿江・藤井，2002，pp. 87-88）という結論は…。

㊩ “……”（Morgan and Hansen，2007，p. 100）という考え方には…。

㊪ 「……………」（松澤ほか，2000，pp. 26-27）という結論は…。

㊫ “……”（Nikos et al.，2009，p. 143）の視点は…。

㊬ 「……………」（新村編，2008，p. 689）という意味で…。

(ウ) 本文中で参照した文献を明記する場合には、次のような形で著者名、発行年、参照ページを記入し、参照しているページが複数ある場合には、括弧内の参照ページをコンマ（，）でつなぐ。なお、参照ページが限定できない（文献全体を参照している）場合には、ページは省略する。同一著者の文献が複数ある場合には、括弧内の発行年をコンマ（，）でつなぐ。「ほか」や“et al.”に対応する共著者が異なる場合も含めて、本文中の表記で同一著者であり、かつ同一年に発行された複数の論文は発行年の後にa, b, c, …をつけて区別する。複数の文献が連続する場合はセミコロン（；）でつなぎ、筆頭著者のアルファベット順を優先して列挙する。

[例]

㊭ 荻山ほか（2012）によれば…。

㊮ 清水（2009，pp. 3-4）は…。

- ㊸ 菊 (2006, pp. 17-18, pp. 27-30) の議論では….
- ㊹ 文部科学省 (2011a, 2011b) による一連の報告では….
- ㊺ 斎藤・名雪 (2001, p. 65) によれば….
- ㊻ Cho (2002, pp. 59-60) およびKang et al. (2007, p. 145) の見解は….
- ㊼ Markovic and Mikulic (2010, p. 890) によれば….
- ㊽ An (2004, 2008) の一連の研究では….
- ㊾ …との見解が多い (浅田, 2009, pp. 390-395 ; 田中・林, 2005, pp. 271-275 ; 矢野ほか, 2010, pp. 90-92) .
- ㊿ 例えば, 目的的サンプリングによるインタビュー調査 (Bechtel and O' Sullivan, 2007, pp. 221-223; Sherman et al., 2010, pp. 2-5) を用いた….

(エ) 翻訳書の著者を表記するときは, カタカナ表記する.

[例]

- ㊿ ベルクソン (2001, p. 87) は「…」と述べている.

(オ) 翻訳書と原著の両方を引用したときには, 翻訳書は上記 (エ) に従って記入する. 原著は英文表記とする.

[例]

- ㊿ サンドル (2010, p. 10) によれば….

(カ) WEBサイト (いわゆるホームページ) やWEBサイトに掲載されているPDFファイルなどを参考文献とする場合は, (著者名, 発行年) または (著者名, online) のように表記する. 発行年やファイル名が特定できない場合は, (著者名, online) と表記する. 同一著者の同一年に複数のWEBサイトが掲載された場合は, 発行年の後ろにa, b, c, …をつけて区別し, 発行年が特定できない場合は文献リストの表示順 (1, 2, 3, …) をつけて区別する.

[例]

- ㊿ 神奈川県立体育センター指導研究部 (2006) の調査では, …

- ㊿ との報告がある (科学技術振興機構, online1) . 一方で, 科学技術振興機構 (online 2) によれば, …

- ㊿ との報告がある (U.S. Department of Health and Human Services, online) .

キ 注記

注は本文あるいは図表, 動画, 写真, その他の資料 (付録などを含む) で説明するのが適切ではなく, しかも補足的に説明することが明らかに必要なときのみ用いる. その数は最小限にとどめる. 注をつける場合は, 本文のその箇所に注¹⁾, 注²⁾のように通し番号をつけ, 本文と論文末の文献リストとの間に一括して番号順に記載する. 注記の見出し語は「注」とする.

ク 特殊文字

(ア) ゴシック

ゴシックは見出し語のみに使用し, 本文中の特定語句を強調するためのゴシック体の使用はさける.

(イ) イタリック

次の場合にはアンダーラインを用いてイタリック体を指定することができる.

- ㊿ 数式中の数
- ㊿ 数値や量

㊦ 統計法に用いられる記号

㊧ 動物・植物の学名

本文中の欧語を強調するためにイタリック体を使用することは、引用の場合などを除いて避ける。

(ウ) アンダーライン

文意を強調するためのアンダーラインの使用は避ける。

(4) 図表、動画、写真、その他の資料（付録などを含む）の作成

本文中の図表等の表記は以下のとおりとする。

図 1. 表 1. 写真 1.

- ・ 図表等は白黒を原則とする。
- ・ カラー図表など特別の費用を要した場合には、その超過分は執筆者が負担する。
- ・ 図表等には、それぞれに通し番号とタイトルをつけ、原則として本文とは別に番号順に一括する。本文への挿入箇所はそれぞれの番号を明記する。なお、原稿に挿入することもできる。

(5) 文献リストの作成

文献リストの見出し語は「文献」とし、本文中に記述された引用及び参考文献についてのみ記載することを原則とする。文献の記載は原則として著者名のアルファベット順とし、書誌データには通常、著者名・発行年・題目（書名）・誌名・出版社・ページなどの情報が含まれる。書式は下記の例にならい、各文献の2行目以降は1文字下げる。

ア 定期刊行物（いわゆる雑誌）の書き方

定期刊行物の場合の書誌データの表記は、著者名（発行年）論文名・誌名、巻（号）：ページ。の順とする。

(ア) 著者名および発行年

共著の場合、和文の場合には中黒（・）、英文の場合には“and”で続ける。ただし、英文で3人以上の場合にはコンマ（,）でつなぎ、最後の著者の前だけに“and”を入れる。発行年は著者名のすぐ後の（）内に記入し、論文名と区切る。著者名の前に番号は不要。本文中の表記で同一著者であり、かつ同発行年の複数の論文を引用した場合は年号の後に a, b, c, …をつける。

[例]

㊦ 小池関也・森洋人・阿江通良（2006）

㊧ Villarreal, E. S., Requena, B., and Newton, R. U. (2010)

㊨ Crossley, N. (2001a) The social body...

㊩ Crossley, N. (2001b) The phenomenological habitus and....

(イ) 論文名

論文名の最後はピリオド（.）を打つ。英文では、題目の最初の文字だけを大文字にする。

(ウ) 誌名

和文誌の場合は略記せず、必ず誌名全体を記載する。英文誌の場合は、その雑誌に指定された略記法、または広く慣用的に用いられている略記法に従う。それ以外は省略しない。誌名の最後はコンマ（,）をつける。

(エ) 巻号およびページ

巻数の後にコロン（:）をつけ論文の開始ページと終了ページを省略しないでハイフン（-）で結び、最後にピリオド（.）を打つ。同一巻が通しページとなっていない場合には、号数を（）で巻数の後に示す。

[例]

- ㊦ Rowlands, A. V., Stone, M. R., and Eston, R. G. (2007) Influence of speed and step frequency during walking and running on motion sensor output. *Med. Sci. Sports Exerc.*, 39: 716-727.
- ㊧ Gray, R. (2004) Attending to the execution of a complex sensorimotor skill: Expertise differences, choking, and slumps. *J. Exp. Psychol., Appl.*, 10: 42-54.
- ㊨ Taylor, D. (2007) Performance efficiency rating for basketball. *Coach and Athletic Direction*, 26(1): 26-28.
- ㊩ 小野桂一・若吉浩二・山南真美・尾関美和・福本隆行 (2002) バレーボールのセッターにおけるオーバーハンドパスについての研究—上肢に着目して—. *スポーツ方法学研究*, 15 (1) :127-136.
- ㊪ 徳永幹雄・橋本公雄 (2002) 健康度・生活習慣の年代的差異及び授業前後での変化. *健康科学*, 24: 57-73.

イ 単行本の書き方

書き方の原則は定期刊行物の項に従うこと。

(ア) 単行本全体の場合

著者名 (発行年) 書名 (版数, ただし初版は省略) . 発行所. の形式とする. また, 編集 (監修) 書の場合には, 「編」, 「監」, あるいは「編著」と表記する. 英文では編集者が1 人の場合は (ed.) , 複数の場合は (eds.) をつける.

[例]

- ㊫ 桜井厚 (2002) インタビューの社会学. せりか書房.
- ㊬ Siedentop, D. and Tannehill, D, (2000) *Developing teaching skills in physical education* (4th ed.). Mayfield Publishing Company.
- ㊭ 原田宗彦・木村和彦編 (2010) *スポーツ・ヘルスツーリズム*. 大修館書店.
- ㊮ Moritz, E.F. and Haake, S. (eds.) (2006) *The Engineering of Sport 6*. Springer.

(イ) 単行本の一部の場合

論文 (章) 著者, 論文 (章) の題名. 編集 (監修) 者名と「編」, 「監」, 「編著」など, 書名 (版数, ただし初版は省略) . 発行所, 論文 (章) のページ (p. またはpp.) の形式とする. 英文の場合には, 論文 (章) の題名. の後に “In:” をつけたあと編集 (監修) 者名と (ed.) , または (eds.) をつける. 編者が2名の場合, 和文の場合には中黒 (・) , 英文の場合には “and” を用いてつなぐ. ただし, 編者が3名以上の場合は, 筆頭編集 (監修) 者の姓の後に, 和文の場合には「ほか」, 英文の場合には “et al.” を用いる.

[例]

- ㊯ Deery, M. and Jago, L. (2006) The management of sport tourism. In: Gibson, H. (eds.) *Sport tourism: Concept and theories*. Routledge, pp. 246-263.
- ㊰ 山崎喜比古 (2008) ストレス対処能力SOCとは. 山崎喜比古ほか編, *ストレス対処能力SOC*. 有信堂高文社, pp. 3-24.

(ウ) 翻訳書の場合

原著者の姓をカタカナ表記し, その後ろにコロン (:) をつけて訳者の姓名を記入する. 共訳の場合は中黒で, 訳者が3人以上の場合は「:…ほか訳」と省略して筆頭訳者だけ記入する. 英文の翻訳書の場合, 原著の書誌データは執筆者が必要と判断した場合に最後にく > 内に付記する.

[例]

㊦ ディクソン：水戸重之訳（2010）メジャーリーグの書かれざるルール．朝日新聞出版．＜ Dickson, P. (2009) The unwritten rules of baseball. Collins. ＞

㊧ アメリカスポーツ医学会編：日本体力医学界体力科学編集委員会監訳（2006）運動処方指針原著第7版．南江堂．

ウ WEBサイトの場合

WEBサイト（いわゆるホームページ）やWEBサイトに掲載されているPDFファイルなどを参考文献とする場合、「URLが変更される」「内容が変更される」「WEBサイト自体が閉鎖される」「文責が曖昧である」などの問題がある．そこで、WEBサイト上の資料は、(1)他に参照可能な公刊物（書籍や学術雑誌等）がないことの確認、(2)著者名と題目およびサイトの名称の確認、(3)参照時のURLおよび日付の記録、(4)内容の適切な保存（当該ページのプリントアウト等）を行った上で用いる．そして、文献リストには「著者名（発行年またはonline）WEBページの題目、WEBサイトの名称、URL、（参照日）」をできる限り詳細に記載する．なお、学術団体等が発行する電子ジャーナル、例えば日本体育学会が発行する“International Journal of Sport and Health Science”などは、「ア 定期行物」としてあつかう．

[例]

㊨ 神奈川県立体育センター指導研究部（2006）学校体育に関する生徒児童の意識調査—中学生の意識．
<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/40/4317/sidoukenkyubu/kenkyusitu/kenkyu/h18-1.pdf>,
（参照日2010年12月8日）．

㊩ 科学技術振興機構（online1）科学技術情報流通技術基準：目的別メニュー：文献を引用したい．
http://sist-jst.jp/menu_purpose/index.html, （参照日2011年4月11日）．

㊪ 科学技術振興機構（online2）科学技術情報流通技術基準：目的別メニュー：論文を書きたい．
http://sti.jst.go.jp/sist/menu_purpose/index2.html, （参照日2011年6月11日）．

㊫ U. S. Department of Health and Human Services（online）SF424（R&R）Application and Electronic Submission Information.
http://grants.nih.gov/grants/funding/424/SF424_RR_GUIDE_SBIR_STTR_Adobe_VerB.pdf,
（accessed 2011-07-01）.

(6) 英文による要約について

英文による要約の語数は、400語以内とする．この要約には、原則として研究の目的、方法、結果、および結論などを簡明に記述すること．

ア 英文による要約は、外部機関による英文校閲を受け、校閲証明書と和文の要約を委員会に提出する．費用は執筆者が負担する．

イ 英文による要約については、委員会の責任において一応の吟味をする．英文に明らかな誤りがある場合には、原意を損なわない範囲で調整することがある．

ウ 英文による要約の作成にあたっては、特に次の点に留意すること．

(ア) 日本国内で知られている固有名詞でも、海外の読者に知られていないようなものについては、簡単な説明を加える．

(イ) 句読点としてのコンマおよびピリオドの後は1文字あける．

(ウ) 省略記号としてのピリオドの後はあけない．

(7) 謝辞, 付記など

公平な審査を期するために、謝辞および付記などは投稿論文「受理」後に書き加えることとし、投稿時の原稿には入れない。

3 投稿論文の提出

- ・ 投稿論文は記録メディア（USB等）またはメールにて提出する。投稿論文は原則として返却しない。
- ・ 投稿論文の採否については、審査結果の報告に基づき、図書・学術委員の合議によって決めるものとする。審査の結果、内容の変更を求めることがある。
- ・ 投稿論文は図書課に提出する。投稿論文は図書課への提出日を受付日とし、委員会による掲載承認日を受理日とする。受理された投稿論文は、委員会が訂正を要求した箇所以外に、委員会の承認なしに変更を加えてはならない。
- ・ 委員会より訂正を求められた投稿論文は2週間以内に再提出することとし、2週間を超えた後は受け付けない。
- ・ 受理後の著作権は本学に帰属するものとするが、内容に関する責任は論文の著者が負う。
- ・ 投稿論文と同時に、「びわこ成蹊スポーツ大学紀要論文投稿に向けたチェックリスト」（別紙）に必要な事項を記入の上、提出する。

4 原著論文および研究報告の審査

- ・ 投稿論文の採否については、審査結果の報告に基づき、図書・学術委員の合議によって決めるものとする。
- ・ 審査は、各論文につき図書・学術委員によって決められた2名の学内教員によって行われ、採否が割れる場合には、3人目の審査員を依頼し、委員会にて最終決定が行われる。
- ・ 委員会が必要と認めるときは、学外の者に審査を依頼することがある。

5 論文の校正

- ・ 論文の執筆者校正は1回とする。
- ・ 執筆者校正の際、印刷上の誤り以外の字句の修正や、投稿論文にない字句の挿入及び図表等の修正は認められない。

6 製本・印刷

- ・ 製本は、B5版とする。1行20字、1ページ41行、2段組とする。図表の大きさは左右1段幅(7cm)か、左右2段幅(14cm)の2種類を原則とする。なお、場合によっては図面の縮尺は委員会で変更することもある。
- ・ 抜き刷りについては、原則として執筆者の負担とする。また、図表等により、印刷に特別の費用を要した場合には、その費用は執筆者の負担とする。